

寄居町地域公共交通計画 概要版

1. 計画の背景と目的

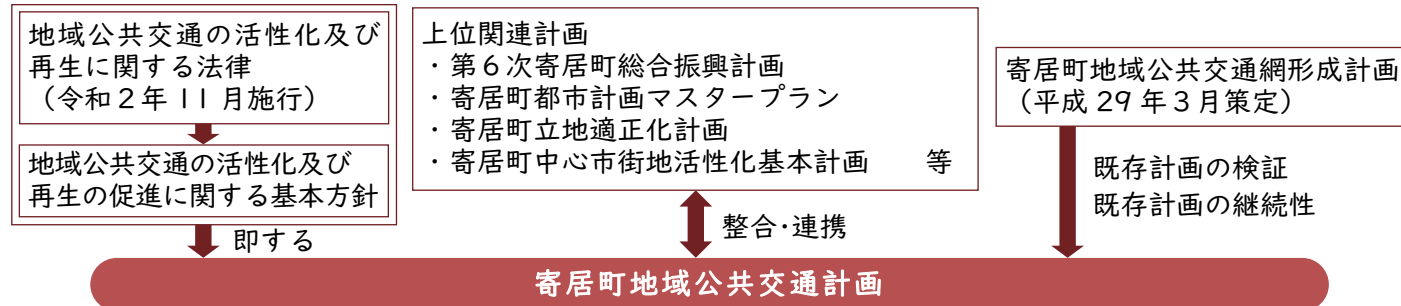
寄居町は、鉄道3路線と路線バス3路線によって、公共交通のネットワークが構築されているものの、町の面積が64.25km²と広く、町域の約25%が山林で、鉄道や路線バスだけではカバーできない地域が点在しています。

そこで、交通不便地域の解消及び高齢者の移動手段を確保することを目的に、平成25(2013)年3月に「寄居町地域公共交通総合連携計画」を策定し、同年4月よりデマンド型乗合タクシー（愛のりタクシー）の運行を行っています。また、平成29(2017)年3月には持続可能な公共交通ネットワークの形成を進めるため「寄居町地域公共交通網形成計画」を策定し、地域公共交通の確保維持に努めてきました。

しかしながら、人口減少の本格化、高齢者の運転免許返納の増加、公共交通を確保・維持するための公的負担の増加が続く中、地域社会全体の価値を高めるためには、地域の移動ニーズを踏まえた、利便性が高く、誰もが利用しやすい持続可能な地域の公共交通体系を構築、維持していくことが重要となっています。

こうした中、網形成計画の計画期間が令和3(2021)年度で満了すること、また、令和2(2020)年6月に公布、11月に施行された「地域公共交通の活性化及び再生に関する法律」の改正を受けて、網形成計画の見直しを行い、新たな地域公共交通のマスタープランとなる「寄居町地域公共交通計画」を策定しました。

2. 計画の位置づけ



3. 寄居町における公共交通の概況・課題

【都市概況について】

- 総人口は平成12(2000)年頃を境に減少し、老年人口割合は、令和27(2045)年には46.7%に達し、安心して移動できる交通手段の確保が求められます。
- 65歳以上の高齢者は町内に広く分布しており、鉄道・バスサービス圏外となる地域への対応が求められます。
- 自動車依存度は依然高く、高齢化状況も踏まえ、他交通への利用促進が求められます。

【公共交通利用について】

- 《鉄道》
- 二次交通手段が無い駅が多く、交通結節機能の強化が求められます。
- 《路線バス》
- 県北都市間路線バス、東秩父村路線とも乗車人員は減少しており、継続維持に向けた取り組みが求められます。
- 《愛のりタクシー》
- 利用人数は微増であるものの、収益率が低下しており、収益構造の向上に向けた取り組みが求められます。

【町民意識について】

- (町民アンケート調査より)
- 免許のない人が13%、自分専用の車両が無い人が32%おり、公共交通を必要とする人が一定程度おり、こうした潜在需要に対応した施策が求められます。
- 自動車移動中心で、公共交通の満足度及び利用率が低く、現サービスの改善が求められます。
- 公共交通が改善されたとしても、路線バスや愛のりタクシーに至っては、利用する意向は低く、利用したくなる工夫が求められます。

寄居町における公共交通の課題

- ①高齢化率が高くなる状況を踏まえ、自動車依存から脱却し他の移動手段への転換を促進する対策を講じる必要があります。
- ②公共交通の町民満足度の低さと、利用者及び収益率の減少傾向に歯止めをかけ、利用者の潜在需要の掘り起こし等を含め公共交通を維持していくための方策を講じる必要があります。
- ③愛のりタクシーの収益構造の改善に向け、他の公共交通手段と連携しながら持続可能な利用促進策を展開する必要があります。
- ④公共交通の情報不足等に対応し、誰もが利用しやすい公共交通の環境づくりを進めていく必要があります。

4. 計画の区域・目標期間

本計画の区域：寄居町全域

本計画の期間：令和4(2022)年度～令和8(2026)年度

5. 地域公共交通計画の基本方針

将来公共交通体系の「基本理念」とそれを実現するための「基本方針」は、網形成計画を踏襲し以下のように設定します。

【基本理念】

よりいまちの可能性を支える持続可能な公共交通の実現

【基本方針】

①誰もが安心して利用でき、持続可能でコンパクトなまちづくりを支える公共交通網の確立

自動車依存の軽減化とあわせ、中心市街地への移動の利便性を確保していくとともに、誰もが安心して日常生活を送れる公共交通網の確立を目指します。

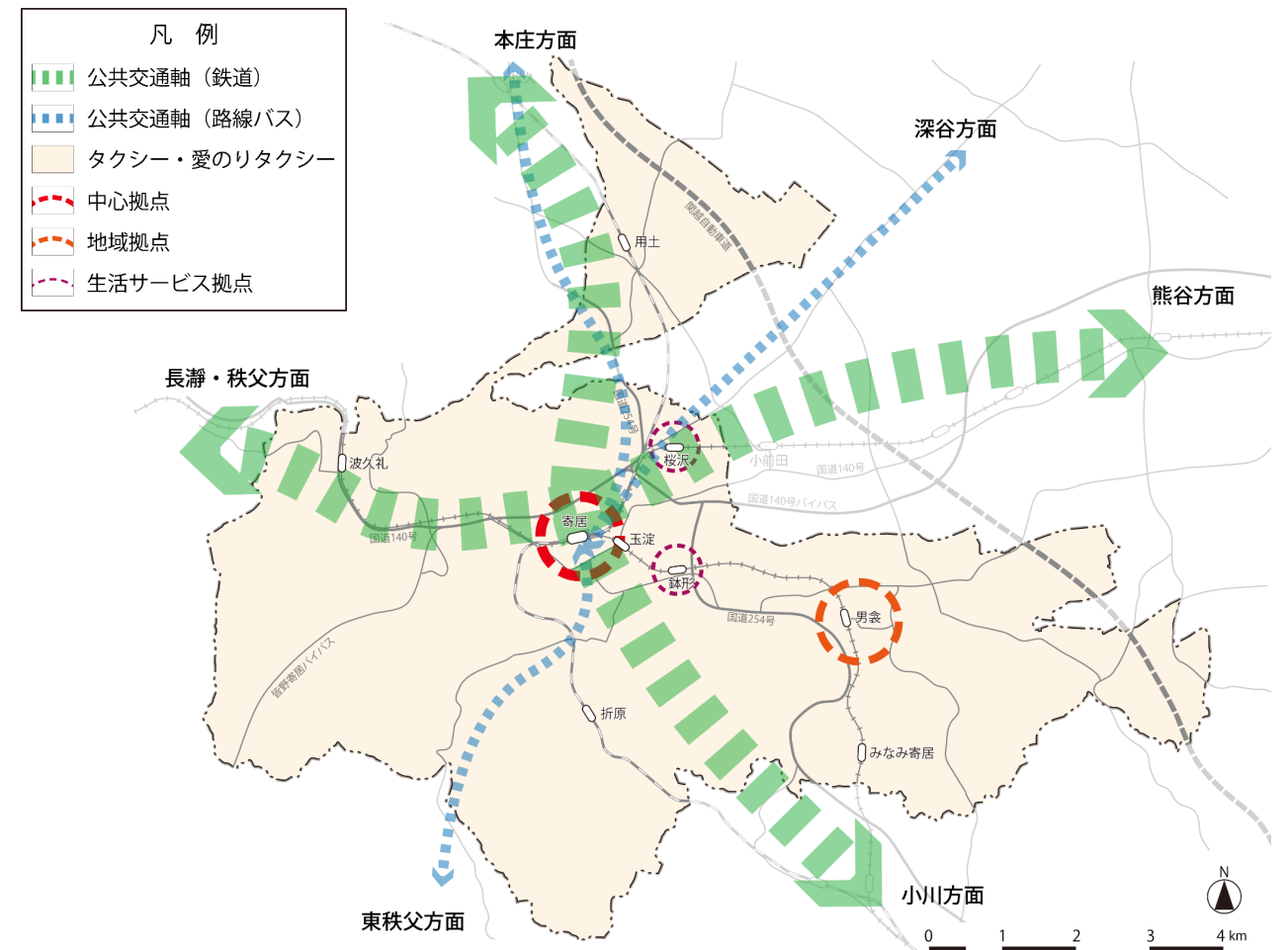
②みんなが笑顔で利用できる愛のりタクシーの利用環境の改善

運行の維持に向け、登録者の利用を促進と利用増を図るとともに、グループでの利用や土日の観光需要の取り込みなども含めて愛のりタクシーの利用環境改善を目指します。

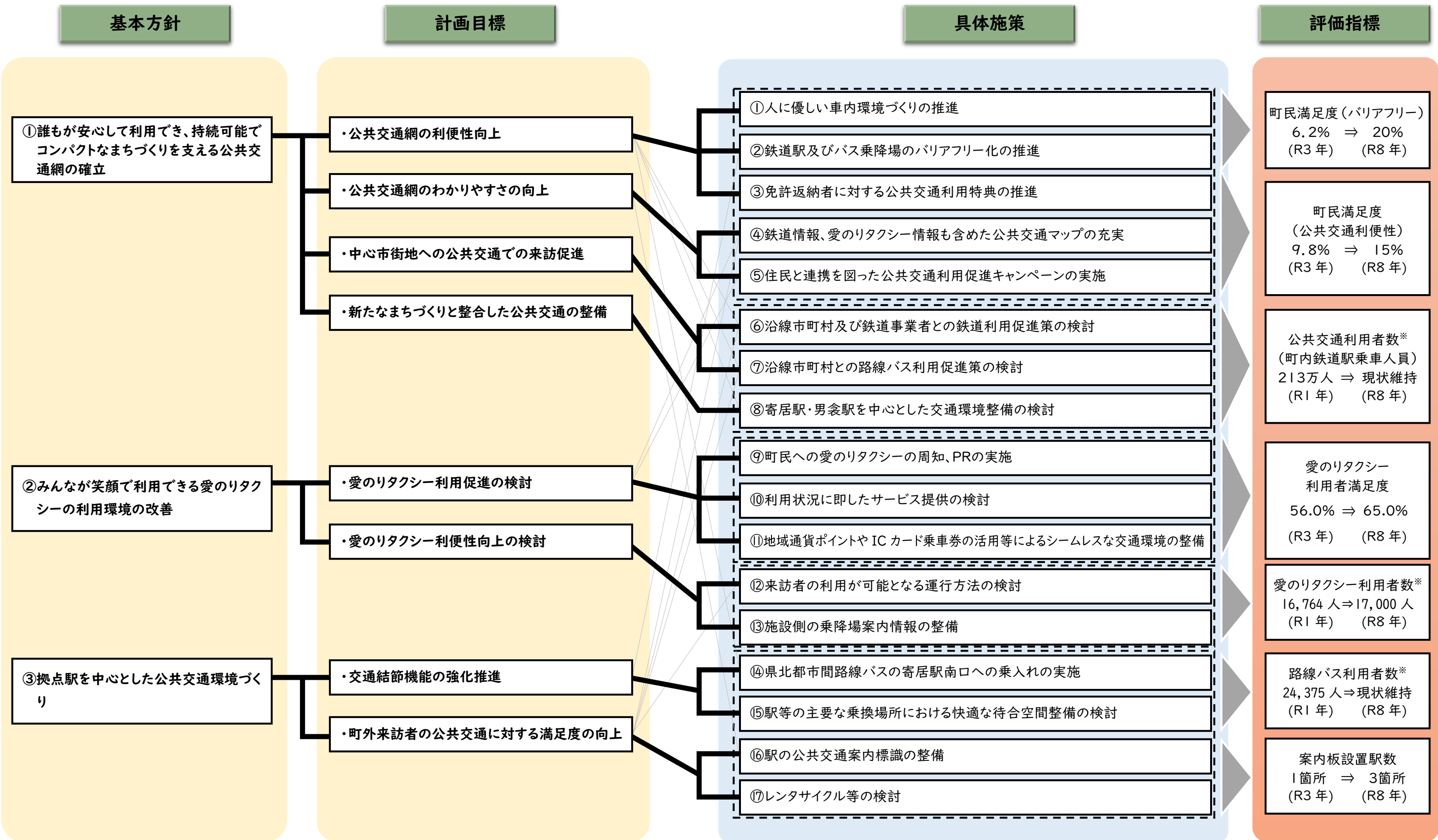
③拠点駅を中心とした公共交通環境づくり

寄居駅では、南口駅周辺の整備と合わせ乗り換え環境の改善及び案内標識等の整備を推進します。他駅においてもバリアフリー化、案内標識、レンタサイクルの整備等を進めます。

6. 将来交通体系のイメージ



基本理念：よりいまちの可能性を支える持続可能な公共交通の実現



※現状値のうち、公共交通利用者数・年間愛のリタクシー利用者数・年間路線バス利用者数については、新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響による利用者の減少を考慮して、令和元（2019）年度の値を使用